



ドローンお供にシカ駆除

大樹で実証へ 猟友会に性能披露

関係者が見守る中、上昇するドローン(19日午前8時45分ごろ、折原徹也撮影)

.....
行した。同社から3人が来町し、真往90^{センチ}、高さ77^{センチ}、重さ6・5^{キログラム}のドローンを飛ばした。関係者約30人が見守る中、上空15〜20^{メートル}まで上げて、搭載したスピーカーから音声を流し、シカを追い立てる作業に活用できることを示した。

同社産業部門技術部技術管理グループの野々部和夫グループ長は「大樹は土地が開けており試験しやすい。早く実用化させて使ってもらい、恩返しできたら」と話していた。(伊藤亮太)

【大樹】4月から小型無人飛行機「ドローン」を使ったシカなど有害鳥獣の駆除システムの実証試験に取り

組むキャリオ技研(本社は名古屋、富田茂社長)は19日、町生花でドローンの試験飛行を行った。今後の実証試験で協力を受ける道

猟友会大樹支部(奥田眞行支部長)のメンバーに性能を披露した。同社は次世代自動車、無人飛行ロボット、画像認識技術、画像認識によるオートパイロット技術などの開発を行っている。ドローンによる有害鳥獣駆除に関しては国の国家戦略特区事業の認定も受けており、3年

ほど前から愛知県で研究開発を行ってきた。

4月からは、森林、平原などの試験効果を確認しやすい環境がある大樹町内で、3〜5年をめどに研究開発に取り組む。事業所は町晩成に置く予定。

この日は、同支部のシカの一斉駆除に合わせ試験飛

行した。

同社は、同支部のシカの一斉駆除に合わせ試験飛

行した。